

第2回 足羽川ダム環境モニタリング委員会

【委員会の主旨及びこれまでの経緯】

足羽川ダム建設事業における環境調査及び環境保全措置について、専門家の意見を伺うことを目的に「足羽川ダム環境モニタリング委員会」を設立しました。

第1回のモニタリング委員会では、足羽川ダム環境モニタリング計画や環境保全措置の計画についてご意見をいただきました。

【第2回環境モニタリング委員会 開催概要】

平成27年2月25日に福井県教育センターにおいて開催されました。委員会では、平成26年モニタリング調査結果と環境保全措置の内容及び平成27年モニタリング調査計画（案）についてご意見をいただき、今後の調査及び環境保全措置の実施方針が確認されました。（詳細は、次頁参照）

委員会開催状況



福原委員長 挨拶



委員会開催状況

委員名簿（敬称略、五十音、◎委員長）

氏名	担当分野	現職等
おくむら みつし 奥村 充司	水環境	福井工業高等専門学校 環境都市工学科 准教授
くぼかみ そうじろう 久保上 宗次郎	鳥類 生態系	猛禽類研究家
なかむら さちよ 中村 幸世	植物	福井市自然博物館 学芸員
◎ ふくはら てるゆき 福原 輝幸	水環境	福井大学大学院 工学研究科 教授
まつた たかき 松田 隆喜	魚類	福井農林高等学校 教諭

委員会は、5名全員がご出席されました。

第2回 足羽川ダム環境モニタリング委員会

I. 事務局からの報告

事務局より以下の事項を報告しました。

- ・平成26年モニタリング調査結果と環境保全措置について
- ・平成27年モニタリング調査計画(案)について

II. 委員会での意見

事務局からの報告に対する委員からの意見及び事務局回答は以下のとおりです。

委員からの意見	事務局回答
クマタカの生息状況のとりまとめについて、個体情報や繁殖に係る行動等に配慮しとりまとめること。	個体情報や繁殖行動等に配慮しとりまとめます。
ヤマセミの生息数が減少している。クマタカと併せて調査して頂きたい。	クマタカ調査時にヤマセミの生息状況も調査します。
カワヤツメ、イワナ、ドジョウの生息情報が少ないため、魚類調査時に確認していただきたい。	平成27年に魚類調査を実施するため、カワヤツメ、イワナ、ドジョウを含めた魚類全般の生息状況について調査します。
流水型ダムであるため、土砂等の堆砂は少ないと思われるが、供用後の堆砂についてしっかりと管理していただきたい。	予測では、常時水を貯めているダムに比べ、堆砂量は少なくなっていますが、先に完成した他の流水型ダムの状況も踏まえつつ、適切に対処していきます。
多くの移植対象種が存在するが、移植先は確保できているのか。	平成27年の移植予定分は概ね確保できています。平成28年以降の移植分については、今後調査し、確保していく予定です。
貯水地内の伐採により表土が乾燥すると、生態系に変化が生じるため、空撮等で把握してはどうか。	調査方法について検討します。
工事関係者への環境配慮事項周知後、現場で適切に実施されているか実施状況を記録しておくこと。	現場で適切に実施されている状況を記録し、PDCAに反映していきます。

III. 今後の予定

- ・モニタリング委員による現地視察会を開催します。
- ・平成27年モニタリング調査計画に基づきモニタリング調査を実施していきます。
- ・環境調査の結果により懸念がある場合は、委員会開催に限らず、適宜、委員よりご指導・ご助言を頂き、必要に応じて、速やかな対応を行います。
- ・委員会は年1回とし、次回は12月から翌年3月頃の間を予定しています。